



海外で活躍する建設コンサルタント技術者が、独特の目線で各国を紹介するコーナーです。

OVERSEAS

Republic of the Philippines

— フィリピン共和国 —

海外事情



活気あふれる若い国



長尾 日出男 NAGAO Hideo

大日本コンサルタント株式会社 / 海外事業部 / Senior Project Manager

JICAの長期橋梁専門家として

フィリピン共和国は、ご存じのように、第2次世界大戦の激戦地として様々な歴史が刻まれた国の一つである。

近年のフィリピンは、GDP経済成長率が2018年に6.2%、2019年に5.7%と非常に好調な経済状況が続けてきており、まもなく中進国の仲間入りを果たすと言われている。コ

ロナ禍で時期は少し遅れるようであるが、今後も社会経済発展を遂げ、国を取り巻く環境は大きく変化していくに違いない。

日本との関係は極めて良好であり、2019年時点で約17,000人の在留邦人がフィリピンで仕事や生活を行っている。経済援助額は二国間ODAの累計では世界第5位であり、日本はフィリピンにとって最大の援

助供与国である。

私がフィリピンへ係わりはじめたのは2005年、JICAの長期橋梁専門家として公共事業道路省となるDPWH (Department of Public Works and Highway) へ派遣されたのが発端である。以来、様々な業務でDPWH技術者とともに道路・橋梁の建設・維持管理向上に係る業務を一緒に行ってきた。

フィリピンの地理

フィリピンは16世紀にスペインの植民地となり19世紀末まで支配され続けた。その後「独立の父」と言われるホセリサルによる独立運動を経て、アメリカの支援も受けながら1899年6月12日に独立宣言がなされ、第一共和国が成立した。しかし今度はアメリカにより植民地化され、第2次世界大戦中は日本軍による占拠もあったが、終戦後、再独立に至った。独立後はマルコス大統領の長い独裁政権が続いたが、1986年2月22日に市民が蜂起したエドサ革命(通称ピープル・パワー革命)が起こり、マルコス政権は崩壊した。このようにフィリピンは、長

い植民地時代を経た歴史がある。

気候は熱帯海洋性で、1年のほとんどは蒸し暑く、特に3~10月が暑い時期となる。この時期には多くの台風が発生し、毎年フィリピン国土を襲って被害を出している。日本にも多くの台風が向かい大きな被害が発生している。また、地勢的には地球の表面を覆うプレート境界付近の環太平洋造山帯に当たる地域でもあり、火山が多く地震も多発する。

国土は日本と同様に四方を海で囲まれた島国で、大小7,500を超える島々から構成されている。人が住んでいる島は1,000余りで、首都マニラがあるルソン島や、セブ島、ミンダナオ島等が有名である。人口は



JICA技術協力橋梁維持管理での点検研修



ボホール地震被害(落橋)



ミンダナオ島沖のアボアイランド



島から島への移動はバンカーボート

2015年に1億人を超え、日本の人口にほぼ匹敵した。首都マニラは1,000万人を超え、東京と同様に高層ビルディングが建ち並ぶ大都会であり、ここが未だ発展途上国であるとは信じがたい状況である。

また、国民の平均年齢は24歳と大変若く、日本と20歳も違う躍動感あふれる若者の国でもある。

フィリピンの文化

フィリピンの公用語はタガログ語であるが、ほとんどの国民は英語を話し、会議等では英語による会議が一般的である。英語がなかなか上達しない我々日本人からすると、お年寄りから小さな子供までスラスラと英語を話し、アメリカの映画や音楽を楽しんでいる様子はうらやましい限りである。

アジアで唯一のキリスト教国で、16世紀にスペインから伝わり広まった。教会の影響力は強く、離婚法や人工妊娠中絶や避妊に反対しているため「離婚は難しい」と言われている。

フィリピンには、現代の日本ではほとんど聞かれなくなった財閥制度が今も色濃く残っており、フィリピン経済に大きな影響を及ぼしている。日本でも有名なサンミゲル社のビールは、財閥制度を利用して大きく発展してきている企業の一つで、今やフィリピンの高速道路建設・維持管理にも大きく貢献している。また不動産開発で大きくなったアヤラ財閥やアキノ元大統領率いるコファンコ財閥など、多くの財閥が厳然とフィリピン経済を仕切っている現状を垣間見ることが出来る。

一方で多くのフィリピン人が海外へ出稼ぎに行き、家族を支えているのも大きな特徴である。全世界の国々で家政婦やホテルマン、建設労働者、船乗りなどあらゆる職業に従事しており、彼らが本国へ送金する額は国家予算の10%を超えていると言われており、フィリピンの経済を支えている。このように社会や経済を支える2つの側面を持つ国は、フィリピンのみと思われる。

近年は日本のラーメン店など多数

の外出チェーン店がフィリピンに進出している。日本フードが大好きな国民は、どの店も多くのフィリピン人であふれかえっている。政治だけではなく食を通じて、日本とフィリピン双方の理解と友好が深まることで、互いを支えあう国になればと願うものである。

日本との係わり

フィリピンと日本との係わりあいは、キリシタン大名として有名な高山右近が、豊臣秀吉のバテレン追放令により、マニラへ移住している。その縁で、マニラ市内の公園に高山右近像と碑が建立されている。また、フィリピン諸島の南端に位置するミンダナオ島のダバオは第2次世界大戦前から日本人が多数移住し、大規模な日本人街を形成し、今も多くの日本姓を持ったフィリピン人が我々を温かく迎えてくれる。

道路等インフラ関係としては、終戦後の日比友好道路が始まりである。戦後賠償として、北のレイテから南のミンダナオまでを南北に島々を縦断する約2,100kmとなるこの道路整備を行った。名前の通り、両国の友好の象徴として建設され、地域経済の発展を支え、地域住民に親しまれる重要な幹線道路として活用されている。

これ以降も日本は、多くの道路や橋梁の整備支援を行ってきている。特に、フィリピンには多くの橋梁があり、これらのほとんどは日本の優れた橋梁技術を駆使して設計・建設されたもので、現在重要な路線の一部として、また地域のシンボルとして住民に親しまれながら活用されている。しかしながら既に50年を経た橋梁もあり、近年損傷が目立ってきているため、DPWHはこれらの維持管理に取り組んでいる。維持管

理技術には日本からの技術支援が期待されている。

フィリピンの将来

フィリピンの国土面積は30万km²と日本の8割で、島の数は大中小7,500を超える。日本と同様に国土や地域の発展を進めていくために、島々を結ぶ架橋計画が進められている。美しい環境を守りつつ架橋事業が進んでほしいと願う。

私が接してきたフィリピン人の多くは、明るく楽天的でホスピタリティにあふれており、一緒に仕事をするには心強い。一方、新しいものにすぐに興味を持つが、すぐに飽きるようでもある。

今後は50年を超えた橋梁が増大することから、維持管理が重要になる。両国の関係がより良好になり、日本の技術や経験がフィリピンの発展のために役立ってほしいと願っ



第2マクタン橋 (日本ODA援助)

ている。

日本から4時間余りと近く、素晴らしい自然に恵まれた国でホスピタリティにあふれる人柄に触れなが

ら、活気あふれる若い国のエネルギーを感じるフィリピンを是非一度訪れてみてはいかがでしょうか。



サンワニコ橋 (日本の戦後賠償援助)